

校内研究のまとめ

研究主題

生徒一人一人の「学ぶ力」を育成する指導法の工夫
～1人1台端末の活用を通して～



目 次

I	総論	
	研究の概要	2
II	研究の実際	
	1 授業での取り組み	5
	2 家庭と学校をつなぐ活用	12
	3 様々な教育活動における活用	14
III	アンケート分析	
	N I Eアンケート	19
	学習状況調査等	21
IV	研究の成果・今後の展望	
	研究の成果・今後の課題	25
	来年度について	26

生徒一人一人の「学ぶ力」を育成する指導法の工夫 ～1人1台端末の活用を通して～

総論

1. 指定研究課題と研究内容

(1) 指定研究課題

一人一台端末を利用した授業改善を行う。(委託年数 2年)

- ・全体計画及び年間指導計画(教科横断的な活用の視点)の作成
- ・一人一台端末を有効に活用した授業実践
- ・実践研究結果の発表、モデル授業の公開、通信等における実践事例の紹介
- ・県・市町の広報の機会(教育フェスタ)における情報提供

(2) 研究内容

① 研究の「共通の柱」

- 授業, 家庭学習, 様々な教育活動において, 1人1台端末を活用し, 生徒一人一人の学ぶ力の育成をめざした指導法の工夫を行う。(図1)
- 学ぶ意欲(学びに向かう力), 学んだ力(基礎的・基本的な知識及び技能), 活かす力(思考力・判断力・表現力)の3つを「学ぶ力」とし, 1人1台端末を活用して, 生徒一人一人の「学ぶ力」を育成する。

② 具体的な取組

- 授業における1人1台端末の取組
- 家庭学習における1人1台端末の取組
- 様々な教育活動における1人1台端末の取組

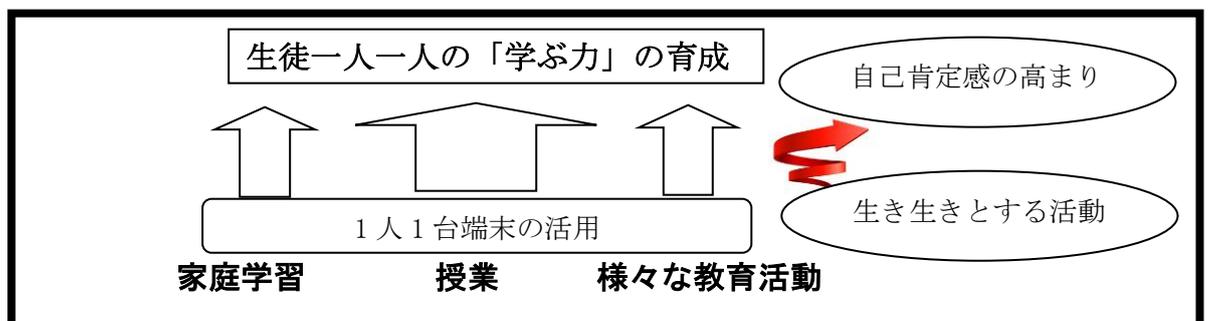


図1 「学ぶ力」の育成

2. 研究の概要

(1) 主題設定の理由

本校は、学級数6クラス（普通学級4クラス・特別支援学級2クラス）の小規模校である。生徒全体としては、純朴でおおらかであるが、学習に対する苦手意識が強く、主体的な学習が進まず自己肯定感が低い生徒がみられる。地域全体として通塾率は低い上に、家庭学習にかける時間も少ない。そのような中で、令和3年度は、「学ぶ力」をバランスよく育成するために、授業、家庭学習、様々な教育活動において、アウトプット活動を通じた指導法の工夫を行ってきた。

新学習指導要領では、急速な社会の変化の中、一方的に知識を得るのではなく、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生涯にわたって能動的に学び続ける力の育成を目指している。そこで令和2年度、これからの時代に求められるこうした力を、「学ぶ意欲(学びに向かう力)」「学んだ力(基礎的・基本的な知識及び技能)」「活かす力(思考力・判断力・表現力)」の3つに分けて、これら3つの力をまとめて「学ぶ力」とした。そして、この「学ぶ力」をバランスよく育成するには、授業や家庭学習、様々な教育活動において1人1台端末を活用した学習指導法の工夫が必要であると考えた。また、文部科学省から出された「子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて」では、PC端末が鉛筆やノートと並ぶマストアイテムとして令和時代のスタンダードになり、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びに寄与すると示された。そこで本校では昨年度から、1人1台端末を活用し、個別最適化された学びや協働的な学びについても、新たな指導法を探ってきた。

授業においては、1人1台端末を計画的に取り入れ、生徒一人一人が生き生きと活動する場面を設定することで、「学ぶ力」を育成できると考えた。また、家庭学習においては、1人1台端末で学習を振り返る活動や、予習する活動を行い、成果を承認する環境を整備することで「学ぶ力」のさらなる育成ができると考えた。さらに、学校生活の他の様々な教育活動においても、1人1台端末を活用した個別最適化された学びや協働的な学びの指導法を探り、生徒それぞれの学習の成果を承認することで、生徒の自己肯定感を高める指導ができると考えた。

これらの研究実践を通して、肥前中学校生徒一人一人の「学ぶ力」の育成を目指した学習指導法の工夫を行うために本主題を設定した。

(2) 「学ぶ力」の定義

生涯にわたって能動的に学び続ける力を、「学ぶ意欲(学びに向かう力)」「学んだ力(基礎的・基本的な知識及び技能)」「活かす力(思考力・判断力・表現力)」の3つに分けて、これら3つの力をまとめて「学ぶ力」とした。「学ぶ力」を育むためには、生徒一人一人が生き生きと活動する場面を設定し、与えられた知識をインプットするだけでなくアウト

トプットすることが必要である。

(3) 研究内容と方法

- ① 年度当初にQUアンケートを行い、自己肯定感の低い生徒を把握する。1人1台端末を活用した生き生きとした活動を授業、家庭学習、行事など様々な場面で設定し、自己肯定感の高まりがあったかを、2回目（12月実施）のアンケート結果と比較して分析する。
- ② 年度当初に学習アンケートを行い、「1人1台端末を活用した生き生きと活動する場面があるか」について授業や家庭学習、様々な教育活動における取組状況を把握する。組織的、計画的に1人1台端末の活用を位置づけ、どのような変化が現れたのか、2回目（2月）のアンケート結果と比較して分析する。
- ③ 年度当初に意識調査を行い、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」「将来の夢や目標を持っているか」「自分にはよいところがあると思うか」について生徒の状況を把握する。授業や家庭学習、行事など様々な場面で、1人1台端末を活用した生き生きとする活動をしくみ2回目（2月）のアンケート結果と比較して分析する。
- ④ 年度当初に学力診断テストを行い、2回目（11月）、3回目（2月）に得点が変わるよう推移したのか、全体の傾向を分析する。

(4) 期待する研究成果

授業、家庭学習、様々な教育活動において、1人1台端末を活用し、生徒一人一人が生き生きと活動する場面を設定することで、自己肯定感が高まり、「学ぶ力」を育成できると考えた。

(5) 研究組織

研究推進委員会

校長・教頭・教務主任・研究主任・Eリーダー・各学年研究推進委員

3. 研究の実際

(1) 授業での取組

① 学ぶ意欲を高めた実践

(i) 学習の振り返り活動

音楽の授業では、アルトリコーダーやクラッピングの実技テストの振り返りを Forms で行い、テストの様子を動画で撮影して確認させることで振り返らせた。英語の授業では、ヘッドセットを使い、音読を録音しオクリンクで提出させ、個別に評価をフィードバックして振り返らせた。その他にも多くの教科で、Forms を活用した振り返りを行った。道徳の授業では、Forms で作成しておいた授業の振り返りを、まとめの時間に行う取組を全校で共通して行った。(写真1, 写真2) また事前アンケートを Forms でとり、事前と事後の比較が行えるようにした。理科の授業では、授業の振り返りに、毎回同じ Forms のフォーマットを使用した。また完成したワークシートのもつめを写真に撮り、電子黒板で提示し、クラスで共有する振り返りを行った。このような振り返り活動をタブレットで行うことで、生徒の学ぶ意欲を高めた。

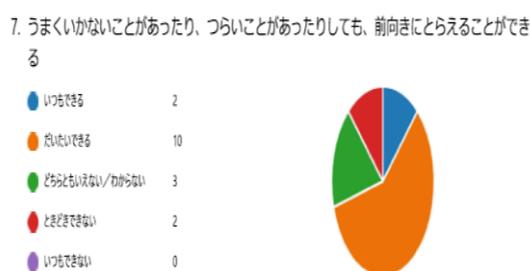


写真1 Forms のアンケート項目



写真2 Forms での振り返り

(ii) 学習の見通しを持つ活動

理科や英語の授業では、Teams の資料に、授業で用いたパワーポイントを送り、各自のタブレットで確認しながら、ワークシートにまとめる活動を行った。(写真3) 英語科では、本文の重要表現をまとめた PowerPoint も配布し、自分のペースで活動できるようにした。(写真4) また、教科書本文の内容を学習するヒントになる「お助けシート」を送り、生徒の能力に応じて、必要な生徒は活用できるようにした。(写真5) 保健体育の授業では、パワーポイントで技の手本を提示しておき、端末でいつでもどこでも模範動画を鑑賞できるようにし、主体的な学習を促した。このように、授業の資料などを配布することで、生徒に見通しを持たせることができ、学ぶ意欲を高めた。



写真3 パワーポイント資料の配布



写真4 配布された PowerPoint 資料

Unit 7-2 A Foreign Artists in Japan Class No. Name

赤字の be 動詞、青文字の一般動詞と、二重下線部の主語に気をつけて読もう！
黄色い印刷は、ここで初めて出てきた単語です。それ以外は、すでに学んだ単語です。
斜めの線(/)はスラッシュで、そこで息づきをして読みましょう！

★Meg	What <u>is</u> rakugo? ファクトク イ ラクゴ	落語って()?
	<u>It's</u> Japanese comic storytelling. イツ ジャパニーズ コミック ストーリーテリング	日本の()だよ。
	A performer on a cushion <u>plays</u> ア パフォーマー オン ア クッション プレイズ	ざぶとんに座った演者(楽家)が()。
★Kaito	different <u>roles</u> . ディファレントル ロルズ	
	The performer <u>uses</u> only two props, / ザ パフォーマー ユーズズ オンリー トゥー プロップス a fan and a hand towel. ア ファン アンド ア ハンドゥー タウエル	演者(楽家)は()の 2つの小道具しか使わないんだよ。
★Meg	<u>Sounds</u> interesting. サウンズ インタレストィング	()だね。
	Diane Kichi jitsu <u>has</u> a show / ダイアン キチジツ ハズ ア ショウ	()に緑ホールで ダイアン吉日の公演があるよ。
★Kaito	in Midori Hall / next Sunday. イン ミドリ ホール ネクスト サンデイ	
	<u>Why don't we</u> go together? ワイ ドント ウェ ゴ トゥゲザー	()?

写真5 お助けシート

(iii) 新聞記事の検索と活用

学級活動では、タブレットで新聞を閲覧する指導を行った。タブレットと用意された専用のIDやパスワードを配布して、佐賀新聞のログイン入力をさせた。IDやパスワードの入力は大文字や小文字が混同した不規則な羅列であるため、想定以上に生徒は時間を要した。ログイン後には、“紙面をみる”操作を指導して、今日の紙面や過去の紙面について読み取りを行った。(写真6)新聞には馴染みがあっても、画面上で見たことのない生徒も多く、積極的に新聞記事を閲覧する様子がみられた。本校では、タブレットを使った新聞の閲覧について、全クラスで時期をそろえて指導した。紙面の閲覧後は、新聞記事の検索方法について指導した。3年生では、しいたけ栽培や平和集会の取組で佐賀新聞に掲載されたことがあったため、“肥前中”というキーワードで検索をさせて関連する過去2年間分の記事を見つけさせた。(写真7)生徒は自分たちの記事が見つかる楽しそうに、ほかの検索ワードも入れて記事を探す様子がみられた。



写真6 “紙面を見る”の画面



写真7 記事検索をして閲覧した画面

②学んだ力を高めた実践

(i)ドリル学習

国語、数学、理科、社会、英語の授業では、ミライシード内のドリルパークの問題を解く時間を設定し、理解できていない部分を繰り返し解かせて学んだ力を高めた。(写真8) 英語の授業では、新出語句や本文の音読練習をデジタル教科書で行った。また理科の授業ではFormsを利用した前時の復習テストを定期的に行い、どの問題を間違えたのか教員が確認して、できていない問題を繰り返し解かせることで生徒の学ぶ力を高めた。



写真8 ドリル問題を解く生徒

(ii)アプリケーションソフトの活用

美術の授業では、鑑賞する作品についてタブレットを使い共有することで、自分のペースで鑑賞できるようにした。生徒はPDFで配布された資料の絵画作品を拡大したり、回転したりしながら、鑑賞を行うことができた。(写真9)そして、電子黒板では長い時間作品を鑑賞させることはできない欠点を補った。理科の授業では、運動エネルギーは速さの2乗に比例することを検証するため、実験データのグラフ化を端末で行った。あらかじめオクリンクで全員に記録用のExcelワークシートを配布し、各グループの実験後に、数値を入力させ、放物線のグラフを作成させた。放物線にならないときは何度も実験の条件を整えてデータをとる姿が見られた。また他の実験の授業では、USBを使い、実験用のアプリを端末に取り入れ、人の反応速度について、実際に調べさせた。技術では、Wordで作成した「ベビーリーフ」の観察記録をTeamsで配布し、毎日の写真を記録し、挿入し、行った作業や気づきを入力させた。授業の振り返りはWordで作成したシートをTeamsで配布し、入力して提出させた。数学の授業では、箱ひげ図についてデータをPower pointで示しておき、問題に取り組みさせた。また、標本調査の学習で、Excelを活用し、無作為に数を抽出させて、平均値を求める学習を行った。特別支援学級での授業では、バス旅行や修学旅行の収支をExcelでつけさせることで数値の入力方法を指導した。また、学校に生えている植物の写真を撮影して、特徴をインターネットで調べさせ、Power pointでプレゼンさせた。英語の授業では、英作文をWordで打ち直して、オクリンクで提出させた。このように各種アプリケーションの使用方法を指導し、活用させることで生徒の学んだ力を高めた。音楽科では、コロナ感染対策を行いながら、確実な音程の確認ができるように、イヤホンで音源を聞いて、音楽再生アプリケーションを用いて、各自でパート練習をさせることができた。



写真9 タブレットで鑑賞する絵画

(iii) インターネットブラウザの活用

保健体育の授業では、授業の最後の学習内容を振り返り1人1問題をつくらせ、FORMSで全員の問題を集約したあとに、小テストをKahoot!で行った。小テストは5問程度で、次の授業の冒頭で、Kahoot!のクイズモードで、得点を競わせた。保存された得点結果は成績に反映させた。(写真10) こうしたゲームを取り入れた授業には楽しく学べる以外にも、多くのメリットがある。(資料1)理科の授業では、授業のはじめに端末を開き、あらかじめデスクトップを表示させておき、授業中にわからない言葉が出てきたときには自由に検索させた。また全体で疑問に思うことや、わからないことが出たときには、キーワードを伝えて検索を促した。社会の授業では、大航海時代について、コロンブス、バスコダガマ、マゼランの中から1

名調べ、航海の中で大変だったことは何かを追究させた。また普段のワークシートにも、このような問題を仕組んでおき、インターネットで追究して調べる問題を設定した。経済の学習では、端末を使った株価の調べ方を指導し、株式学習ゲームを行った。(写真11) また討論の授業においては、調べるサイトを紹介した上で、必要な情報を調べさせ、インターネットで閲覧することができない情報については、教師側で情報を精査してTeamsで資料を配布した。1年生の授業では、世界の国や都道府県の位置について、インターネット上のゲームサイトを活用し楽しく取り組ませた。(写真12) また、いつでもゲームができるようにサイトを登録させた。美術の授業では、ポスター、ピクトグラム、絵文字、自然物の構成、伝えるデザイン、イラストレーションの制作を行う際に、必要な画像をインターネットで検索させた。1年生では、自然物の写真を、2年生では、ポスターに必要な画像、地域の名所の写真、動物や植物の写真、レタリングの字体を検索させた。その他の授業においても、高校新聞や職場訪問新聞、修学旅行新聞などの新聞制作において、インターネットを活用して必要な情報を調べさせた。このようにインターネットブラウザを活用することで生徒の学んだ力を高めた。



写真10 Kahoot で作成した小テスト



写真11 株価を端末で調べる様子



写真12 ネットのゲーム
“世界地図で国名あてクイズ”

<メリット>

- ・クイズ番組のように楽しく学べる
- ・生徒がよい問題をつくるために授業に集中する
- ・作問と小テストの勉強で要点を見極める力が身につく
- ・採点時間が省ける
- ・得点を記録する手間が省ける
- ・データとして残るため成績への反映が容易

資料1 Kahoot を活用した 授業の利点

③活かす力を高めた実践

(i) 討論

社会の授業では「日本を大国にしたのは、日清戦争、日露戦争のどちらか」「A I は有益か」「日本が世界に誇れるのは、農業、工業どちらか」「邪馬台国は九州か、近畿か」というテーマで、メリットとデメリットを考えさせ、討論を行った。(写真13) 具体的な根拠をインターネットで情報収集し、数値として示すことができた。班の中で役割を持たせるため、調べるテーマを決めさせ、1人1つPower pointのスライドをつくり、Teams にアップロード、ダウンロードさせ連結させた。調べる資料については、サイトを精選して指定し、インターネットで閲覧できないサイトについては、あらかじめ資料を Teams にアップロードし、参考にさせた。パソコン室を一切使わずに、端末のみでPower point 資料を完成させ、生徒は主張を伝えることができ、充実した様子だった。(資料2) このような討論の学習での活用を通して、生徒の活かす力を高めることができた。



写真13 社会討論のようす

資料2 生徒の感想

- ・お互いに反論と説明を言い合えて、とても良いディベートでした。相手の意見に対して、少しずつ掘り下げられたと思います。
- ・反論をあまり考えることができていませんでした。ですが、立論はしっかり考えて、パワーポイントを作れました。
- ・このディベートを通して、日清戦争や日露戦争のことを知れた。
- ・班の4人全員でパワーポイントを作り発表できたので良かったです。
- ・こちらが反論しても、どんどん反論されてすごいなと思いました。
- ・楽しかった。色々な人の色々な理由が聞けて面白かったです。

(ii) プレゼンテーション活動

英語では比較表現を用いて、グループでクイズと答えを作成し、端末を用いてインターネットで情報収集させ答える活動を行った。(写真 14) 前時までに、教師が作成した模範の問題を示して置き、やり方を丁寧に指導した。また、「世界文化遺産をプレゼンしよう」と題して、世界文化遺産についてインターネットで情報収集し、プレゼンテーションする授業を行った。このようなプレゼンテーションの活動で、生徒の活かす力を高めた。

(資料 3)



写真 14 生徒が作成した問題

資料 3 クイズ問題を作る授業実践の振り返り

- ・端末を用いてインターネットで調べたことで、様々な情報を集めて、ユニークなクイズを作ることができた。
- ・対等学級に出題するというやり方がモチベーションとなり、より難しい問題を作ろうと、端末で調べて、クラスみんなに聞いて意欲的にリサーチしようとした。

(iii) 話し合い活動

理科の授業では、「動物の体のつくりを2つのグループに分けよう」「純粋な物質を2つに分けよう」「木や鉄を燃やした時に天秤はどうなるだろう」などの学習課題を設定し、パーソナルワークの結果を、オクリンクで提出させ、それぞれの結果を共有し、話し合いをした後にまとめを提出させた。(写真 15) クラスワークでは、電子黒板に各グループの考えを提示し発表させてまとめた。社会の授業では、東京証券取引所が運営する株式学習ゲームに参加させ、所持金1000万円で株を購入させる際に、端末を活用して情報を収集し、どの株を購入すればよいかチームで話し合いを行った。学活の時間には、学級目標を決める授業で、意見を共有するために Microsoft whiteboard を活用した。1枚のホワイトボードに同時に書きこむことができるので、短時間で情報の共有を行うことができた。また、電子黒板に映し出すことで、クラス全体の意見を集約することができた。授業後には、文字データを活用して、学級通信で紹介した。端末を用いて情報を入手、共有し、意見を練りあうことで、生徒の活かす力を高めた。



写真 15 オクリンクで共有するようす

(iv) 作品の制作，発表，鑑賞及び相互評価する活動

国語の授業では，他学年の短歌・俳句・川柳作品を鑑賞して心に響いた作品を選ぶ活動を，タブレットで行った。手順として Teams で生徒が作成した作品を鑑賞し，Forms で投票させ，文化発表会で優秀だった各学年や分野の作品を発表，展示するとともに表彰した。

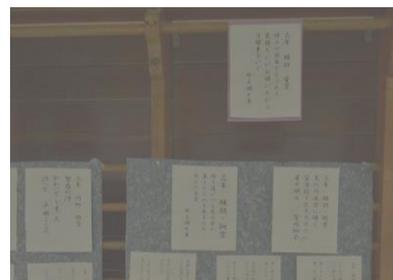


写真 16 他学年の作品を鑑賞

(写真 16) また美術の授業では，制作途中の作品をオクリンクで，共有し，お互いの進行状況を確認し，新たに使ってみたい技法に気づかせた。生徒はオクリンク内のみんなの BOX を活用することで，好きな作品をつなげるなどして相互鑑賞する様子がみられた。また，各グループで互いに練習の様子を撮影させることで，手本との違いを比較させたり，分析させたりする活動を行った。社会科では，「タイムトラベルツアーを考えよう」と題して，時代区分の学習のまとめを Power point で制作してプレゼンを行い，Forms で相互に評価させた。2人1組で担当する時代を分けて制作させ，Teams でアップロード，ダウンロードさせることで Power point を連結させた。また，2人1組で一台はディスプレイ用に，一台は発表原稿用に使い分けさせた。また，同様な形で「幕府改革で一番優秀だったのは，吉宗，田沼，松平のどれか」「日本が進めるべき発電方法は何か」と題したプレゼンを行った。生徒は，他者の意見に耳を傾ける姿がみられた。(資料 3) 他に，「戦国武将新聞」「明治維新の立役者は誰か」「世界の国調べ」「古代新聞」「革命新聞」「平和新聞」「討論新聞」を端末で作成させた。「討論新聞」では，死刑制度の是非、週休3日制の是非、選択的夫婦別姓の是非、憲法改正の是非、軍事費拡大の是非など世論が分かれるテーマについて，新聞で制作させて，お互いにプレゼンで発表した。「平和新聞」では，太平洋戦争について，NHK アーカイブスで閲覧できる戦争体験者の証言について，テーマごとに精選し，興味のある内容を閲覧させて，戦争の実態についてまとめさせた上で，感想を書かせる新聞を作成した。保健体育の授業では，着衣泳の様子を動画や画像として残し，それをもとに Power point で「水の事故防止」の資料作成を行った。こうした作品の制作，発表，鑑賞，相互評価する活動を通して生徒の活かす力を高めた。

資料 3 「幕府改革で一番優秀だったのは誰か」プレゼン後の生徒の感想

- ・どの班の発表もわかりやすく，たくさん知れたし，改革を行った3人の良い点が見えた。
- ・3人の改革者について，楽しく学ぶことができました。
- ・松平定信が優秀だと思っていたが，田沼意次の方が優秀だなど考えが変わりました。
- ・発表してみてどの班の発表もすごかったけど，特に田沼意次の班の発表がすごかったです。またやりたいと思いました。

(2)家庭と学校をつなぐ活用

(i)家庭学習での活用

授業で制作した Power point, Word などの資料は、わかりやすく見やすい資料にするため、文字やレイアウト、デザイン、アニメーションの工夫など、生徒自らが方法を調べ、友人と教え合いながら主体的に取り組む姿がみられた。一方で、授業時間内での作成では、時間が不足することもあり、英語や社会の授業では持ち帰らせて作成させることがあった。英語科では、冬休みの課題として、英語の年賀状を作成し、オクリンクで提出させた。(写真 17) 社会科では長期休業中の課題として、端末を持ち帰らせて、指定したテーマで Power point を作成させた。長期休業中に関心があったニュースについて深く調べさせる「ニュースレポート」や、「明治維新の立役者は誰か」「幕府改革の通信簿」などのテーマを設定し、型紙やお手本はあらかじめ Teams で配信して参考にさせて取り組ませた。長期休業明けの授業では、作成した Power point について生徒同士で確認させて評価する活動を行った。国語科では、夏休みの読書感想文について、書くことに負担を感じる生徒については、Word の原稿用紙に入力し、オクリンクで提出する方法を提示した。苦手意識を払拭する手段として有効であった。また、冬休みに取り組んだ課題について、1週間後にオクリンクを通して解答を送り、答え合わせをして提出させた。音楽科では卒業式の式歌の練習に向けて、合唱曲の3つのパートとピアノ伴奏を TEAMS で配信し、冬休みの課題として家庭で練習させた。3年生では、SDGs に関する新聞記事を用いてスピーチを行い、記事を振り返る掲示物をタブレットで作成させた。掲示物には“記事の紹介”と、“記事を通して考えたこと”を書かせた。完成した掲示物は、学年廊下に掲示して、生徒が時事問題に関心を持てるようにした。生徒はタブレットを持ち帰り、スピーチした内容を振り返ることができた。(写真 18、資料 4)



写真 17 年賀状の作成



写真 18 SDGs の掲示物

資料4 生徒の作成した掲示物より抜粋した文章

・世界の格差がとても大きいなと思いました。最富裕層 35 人の総資産額が世界人口の半分にあたる所得下層 35 億人の総資産額に匹敵するとはびっくりしました。これからコロナで格差が広がり貧困に苦しむ人はますます増えると思うので、自分にできることをしていきたいです。

・私は使用済み切手を集めて換金し、世界の貧困に悩む子どもたちの教育支援に活用していることを初めて知りました。切手は使った後は捨てるのではなく、集めることで資源の無駄を減らし世界の子どもたちが勉強できるように役立っていることのだと思いました。

・海水から大量のマイクロチップが見つかっていて、微小なプラスチックが飲み込んだ生物に大きく影響していることが分かった。そして、その原因は私たちが家庭で洗濯した際の排水だと知り、不要な洗濯をしないことや、適量の洗剤を使うことが大切だと思った。これだと誰でもできることだし、環境にもすごく良いと思います。海の豊かさを守るために、ぜひ家庭で意識してほしいです。

・男女平等な世界は今のところ難しいです。男性と女性の経済格差をなくすためには世界中で女性への見方を変えて“理解すること”が大切だと思います。この記事を読んで、世界中の人々が協力しあい、みんなが納得できるような勇気ある行動が必要だと感じました。

(ii) 授業配信

数学では、学校へ来ることができない生徒や、不登校傾向の生徒に対して、授業で用いたワークシートやパワーポイント、黒板の板書の画像をタブレットのオクリンクで送り、授業内容が理解できるように支援した。また、国語、英語、理科、社会の授業で Teams を使った授業配信を行い、不登校傾向の生徒が授業の様子を見ることができるようにした。

(iii) 休校中の活用

休校中は、ミライシードのオクリンクを活用して朝の会を行い、出欠の確認や健康観察を行った。また、あらかじめ時間割を配布し、授業時間に、オクリンクへ入るように指示し、連絡事項はオクリンク内で行った。オンライン授業では、ワークシートや Power point のデータを配信・確認し、事前に生徒へ配布したワークシートを解かせて、写真で撮影して提出させた。提出させたワークシートは、コメントをつけてフィードバックした。保健体育の授業では、ストレッチやトレーニングが行える資料を作成し、Teams で配信した。事前に配布しておいたワークシートに活動内容や振り返りを行い、写真としてオクリンクで提出させた。また Teams の会議機能を使い、自宅で映像が動くかの確認を行った。

(3) 様々な教育活動における活用

(i) 長期休業中のしおりの作成

冬休みや春休み、ゴールデンウィークには、タブレットを用いて生活のしおりを記入させ、学級担任が指定した日にフィードバックする取組を行った。(写真 19)

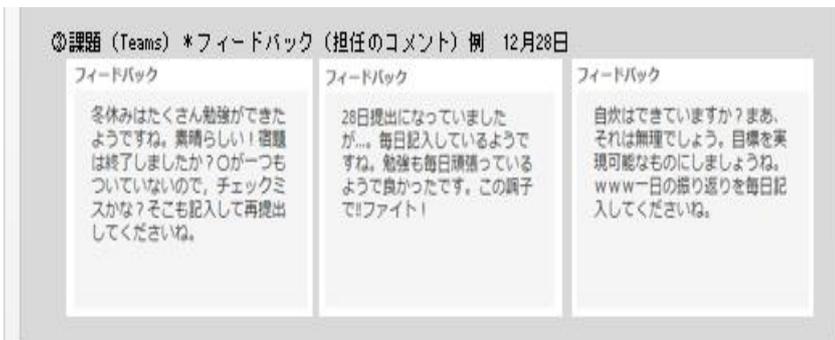


写真 19 フィードバックの例

(ii) 行事のまとめ

職場訪問のまとめ、高校新聞、修学旅行新聞、学級文集などを Word で作成した。(写真 20) また、体育大会や文化発表会の後には Forms のアンケート機能を使い、生徒が振り返る場面を設定し、アンケートの結果について紹介して承認するなど生徒にフィードバックした。

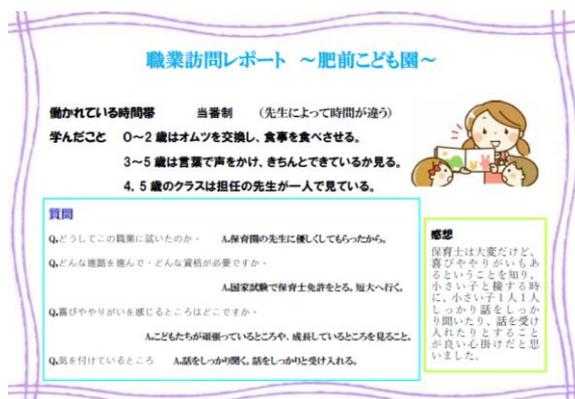


写真 20 職場訪問レポート

(iii) 生徒会活動での活用

新入生オリエンテーションや平和集会、3年生を送る会では、生徒会や実行委員が Power point や動画を作成した。また各実践部の活動で、Word や Excel などのソフトを活用して掲示物を作成した。今年度は、給食実践部で朝食のアンケート、生活保体実践部でコロナ対策についてのアンケートの結果を掲示した。(写真 21)



写真 21 実践部アンケート

(iv) 生活指導や学習指導

生徒指導部を中心に、毎月初めに、Forms のアンケート機能を使って、学級での生活の様子を振り返るアンケートを行った。また、校内研究推進部を中心に、学習の状況を確認するために学習アンケートを行った。アンケート後は、全職員が全生徒の回答を閲覧できるようにして、必要な声かけや支援ができるようにした。こうしたアンケートを Forms で行う利点としては、ペーパーレスで行えることや、集計の手間が省けること、グラフやエクセルの一覧表になるため結果が把握しやすいことがあげられる。ただし、紙で行う方が即時にフィードバックできる場合もあるため、状況を見てこうしたアンケートを活用する必要がある。

(v) 朝の端末タイム

朝の短学活の時間に、教師が選んだ新聞記事を読み、テーマについての是非を考える時間を設けた。その際、テーマについての是非を Forms のアンケート機能で答えさせて、全校生徒の意見をまとめた家庭用のお知らせを配布した。

(vi) 情報モラル教育

昨年度から道徳や学活の時間を活用して、情報モラル教育を行ってきた。道徳の授業では、インターネット上での書きこみが原因でトラブルに発展した事例について考えさせたり、プロレスラーの木村花さんへの中傷について考えさせる授業を行ったりした。今年度、社会科の授業では、個人情報保護法や著作権法にふれながら、情報社会の危険性に気づかせ、インターネットを使う上で、身につけておきたい正しい知識や態度について指導した。その際、著作権フリーの画像の検索方法や、画像や情報についての出典の記載など授業で作品を作る際に必要な実践的な技術を指導した。

(vii) NIE 実践

(ア) 1年生で行ったNIEの実践

1年生では、朝読書の時間に、新聞紙面や電子版の新聞を読み、その日の帰りの会で、気になった記事について紹介した。新聞紙面は2ページ分ずつ配布して、10名程度に配布し、他は電子版を読んだ。(写真22) 生徒は社会的事象に関心を持つようになった。(資料5)



写真22 気になった記事を紹介する生徒

資料5 新聞を活用してよかったところ

- ・自分が思ったことが前より分かりやすく言えるようになりました。
- ・新聞を通して色々な言葉や漢字もたくさん知れたし身の回りで起きている事も知れるのでとてもいいです。
- ・経済や政治のことなど、知らなかった事も新聞には載っているので、関心がなかったことにも興味が持てました。
- ・新聞を見て、ニュースが分かることやテレビを見てもわからないところが分かるところがいいと思いました。
- ・ニュースではわかっていたと思うことが新聞を通して、より分かるようになったりすることができたので良かったです。普段は新聞を読まないなので、新聞の良いところなど改めて知ることがいい機会になりました。
- ・テレビでニュースはよく見ていたのですが、新聞はより詳しく分かりやすかったと思います。後は、文章を読む力が上がったと思います。時々、分らない漢字が多かったなと思います。

(イ) 2年生で行ったNIEの実践

2年生では、毎週水曜日に登校した生徒からタブレットを開き、佐賀新聞の記事を読んだ。そして、気になった記事を要約して、自分の考えを原稿用紙1枚程度にまとめた。原稿が完成した生徒は帰りの会で行っている立腰放送（全校に放送するスピーチ）で発表した。（写真23、写真24）生徒は新聞を読み、活動を通して学んだ力を高めた。（資料6）



写真23 原稿の推敲の様子



写真24 緊張の面持ちで放送する生徒

資料6 新聞を活用してよかったところ

- ・自分が知らない間に、こんなことがあるんだというのがわかった
- ・新聞を読んで、例えばウクライナ戦争のことなど、現在の社会の状況などを詳しく知れたので、良かったです。
- ・テレビよりも詳しく書いてある
- ・世間のニュースに関心が持てて友達とそのことで話すようになった。
- ・ニュースには出ない出来事や地域の人々の作文のようなものがあって楽しく新聞を読めた
- ・新しい知識が得られたり人に教えたりすることが出来たりした。
- ・今まで新聞を読む機会がなかったけど、新聞を読む機会が増えて、今まで知らなかったことや、社会の現在の状況が知れて、また一つ役に立つ知識が増えて良かったです。

(ウ) 3年生で行ったNIEの実践

3年生では、ユニセフの発行している「私たちがつくる持続可能な世界」のパンフレットを教材にして、SDGsの学習を行った。これまでにハンセン病や日本の公害問題などの人権学習、特攻隊や沖縄戦、原爆などの平和学習、森林破壊や海洋汚染などの環境学習を行っており、これら学んだことを振り返りながら、現在の世界の状況を資料から読み取った。そして、SDGsの17の目標のうち、優先的に自分が取り組んでいきたいと思う目標を1位～3位までランキング付けして、ランキングについて選んだ理由を話し合わせた。ここで選んだ1位～3位の目標について、新聞記事から探してスピーチを行う活動を行った。記事の選定は、タブレットの記事検索機能を使い、生徒に探させて、選ばれた記事の読み取りを教員と生徒が一緒になって行った。スピーチの原稿づく

りは主に、昼休みの時間に行い、教員が添削指導を行った。スピーチ後は、考えた内容を掲示物にしたり、学級通信で紹介したりした。(写真 25、写真 26) 生徒は意欲的に取り組み、クラス全員が発表することができ、満足感を得ていた。(資料 7)



写真 25 スピーチの内容を紹介した学級通信



写真 26 帰りの会で行ったスピーチ

資料 7 新聞を活用してよかったところ

- ・楽しかったです
- ・知らなかった情報や調べたことについてスピーチをしたりして楽しく使えた！！
- ・すぐにニュースを知ることができました。とても便利でした。その新聞を利用して SDGs のことについて理解を深めることができました！！
- ・今のニュースがとても分かるようになりました。ニュースを読むことで政治や最近のことに関心が高まりました。
- ・新聞を活用して今まで知らなかったことを知ることができたし関心を持つことができよかったです
- ・私は SDG s について発表したかったので新聞から見つけて海の豊かさを守ろうについて発表できました。とても役に立ちました。
- ・朝あまり見なかったニュースや、話題のことを新聞のおかげで知ることができました。
- ・普段ニュースなどをみていなかったので世の中のことをあまり知らなかったけど佐賀新聞を見ることで広く深く世の中の事について学ぶ事が出来た
- ・たくさんを知ることができるのでとても役に立つと思った
- ・新聞を読んで知らなかったことを新聞で詳しく知れたのでもっと知りたいです。

(エ) 校内環境における NIE の実践

校内環境を整備し、生徒に見てほしい内容を掲示する新聞コーナーを設置した。また、職員で共通理解しておきたいことについて取り上げた新聞コーナーを職員室内に設置した。生徒会の活動など、新聞に掲載されたものは、廊下に掲示した。(写真 27、28)



写真 27 職員室前廊下に新聞コーナーを設置



写真 28 職員室内の新聞コーナー

(4) 学ぶ力の分類

どの力に分類するかは、指導者の意識によって変わるが、共通理解を計るため、年度当初に分類表を作成した。

	学ぶ意欲を高めた実践 (学びに向かう力)	学んだ力を高めた実践 (知識・技能)	活かす力を高めた実践 (思考・判断・表現)
活動イメージ	“調整力” “粘り強く取り組む”	“習得”	“活用”
授業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の振り返り活動 ・ 学習の見通しを持つ活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドリル学習 ・ アプリケーションソフトの活用 ・ インターネットブラウザの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション活動 ・ 討論 ・ 話し合い活動 ・ 作品の制作、発表、鑑賞及び相互評価する活動
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休校中の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業配信 ・ 家庭学習での活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習での活用
様々な教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期休業中のしおり ・ 行事のまとめ ・ 生徒会活動での活用 ・ 生活指導や学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報モラル教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の端末タイム

アンケート分析

〈NIE アンケートより〉

各学年の取組については生徒にアンケートを実施して振り返りを行った。アンケートの結果からは、「活動を通して、ニュース等に関心を持つことができましたか」の項目は、どの学年も「できた」「ほぼできた」が8割程度あり、特に1年生、3年生の実践について効果が高い傾向がみられた。どの項目についても肯定的に評価しており、「学ぶ力」を育成することができた。活かす力について問う「新聞を活用する活動で、物事についてよく考えたり、自分の考えを表現したりすることができましたか」の項目は3年生の実践で高い傾向がみられた。昨年度の反省点である“校内での協力体制”を築けたが、まだまだ授業や家庭学習での実践が乏しいのが課題である。

・活動を通して、ニュース等に関心を持つことができましたか。

	1年生	2年生	3年生
できた	69%	22%	39%
ほぼできた	17%	56%	56%
あまりできなかった	14%	13%	5%
できなかった	0%	9%	0%

・新聞を活用する活動を意欲的に行うことができましたか。〈学ぶ意欲〉

	1年生	2年生	3年生
できた	14%	52%	55%
ほぼできた	55%	26%	40%
あまりできなかった	28%	13%	5%
できなかった	3%	9%	0%

・新聞を活用することで知識やできることが増えたと思いますか。〈学んだ力〉

	1年生	2年生	3年生
思う	38%	39%	78%
やや思う	59%	44%	22%
あまり思わなかった	3%	0%	0%
思わなかった	0%	17%	0%

・新聞を活用する活動で、物事についてよく考えたり、自分の考えを表現したりすることができましたか。〈活かす力〉

	1年生	2年生	3年生
できた	24%	13%	56%
ほぼできた	31%	57%	39%
あまりできなかった	38%	13%	5%
できなかった	7%	17%	0%

1年生の実践について成果と課題

今まで新聞にふれたことがあまりなかったが、今回の取組によって、興味をもって新聞を読む活動が概ねできていたようである。また、電子版にも目を通すことができていた。しかし、知らない語句や読み方がわからないところが多く見受けられ、記事の内容をどれくらい理解しているかは疑問に思える。帰りの会で気になった記事の紹介をする人を挙手により求めたが、皆が発表にとても消極的で、記事内容の理解と自分の考えを持つことがあまりできていないことが原因の一つであると推察した。また、発表に対する自信をつけさせていくことも必要であると感じた。今後は、記事内容の教材化を図り、教科指導等に活用していくことで、NIEをより効果的に進めていきたい。

2年生の実践について成果と課題

家庭でも新聞にふれる機会が少ない生徒たちに、定期的に新聞記事を読む時間を設定したことで、興味をもって新聞を読む活動ができ、社会に目を向ける必要性を感じるよい機会となった。

ほとんどの生徒がスマートフォンを所持し、自分の興味がある事柄の情報のみに触れている現代の中学生には、必要な機会であることを痛感した。

今後も、継続して新聞の記事を読み、社会に関心を持つ生徒を育成していきたい。

3年生の実践について成果と課題

アンケートの結果からわかるように、全般的に生徒は意欲的に取り組み、新聞から知識を得て、考えて表現することができていた。特に他学年に比べ、「新聞を活用する活動で、物事についてよく考えたり、自分の考えを表現したりすることができましたか」の項目が高く、これまでに教科で学んできたことを関連づけて表現できている生徒がいた。一方で、このような機会がなければ新聞を読まない生徒もおり、継続して指導を行っていく必要があると感じた。

〈学習状況調査より〉

学習状況調査の結果については、職員で共通理解して分析した。県平均と比較すると、おおむね下回る結果であったが、昨年より数値が上昇した教科が多くあった。

〈学力診断テストより〉

学力診断テストを年に3度実施した。1・2年生についてはほぼ横ばいの結果で、3年生は一けた台の数が減少した。

〈令和4年度 学習アンケートの結果より〉

○家庭学習時間（月曜日～金曜日）

（表中の数値は、「1時間以上学習できている」の合計値）

	R2 6月	9月	2月	R3 7月	1 1月	2月	R4 7月	2月
1年							48%	82%
2年				69%	60%	54%	39%	37%
3年	73%	89%	77%	75%	74%	75%	71%	97%

(53%) (72%)

（表中の数値は、「2時間以上学習できている」の合計値）

	R2 6月	9月	2月	R3 7月	1 1月	2月	R4 7月	2月
1年							12%	30%
2年				30%	21%	19%	9%	12%
3年	30%	37%	31%	30%	37%	34%	25%	64%

(15%) (35%)

1時間以上学習している生徒の割合は、1年・3年で顕著に増加し、校内全体で19ポイント増加した。一方で、2年生の数値は37%とやや低い傾向がある。2時間以上学習している生徒の割合も同様の傾向がみられ、校内全体で20%増加した。

○家庭学習時間（土曜日・日曜日）

（表中の数値は、「1時間以上学習できている」の合計値）

	R2 6月	9月	2月	R3 7月	1 1月	2月	R4 7月	2月
1年							42%	57%
2年				57%	54%	61%	45%	50%
3年	63%	92%	74%	81%	67%	79%	86%	91%

(58%) (66%)

(表中の数値は、「2時間以上学習できている」の合計値)

	R26月	9月	2月	R37月	11月	2月	R47月	2月
1年							6%	27%
2年				26%	30%	32%	24%	25%
3年	35%	47%	41%	42%	44%	55%	43%	84%

(24%) (45%)

1年生以外は、土日の学習時間が平日よりも高い傾向にある。1時間以上学習している生徒の割合は、7月に比べ、どの学年でも増加し、校内全体で66%を超えた。また、2時間以上学習している生徒の割合は、3年生で高く、1, 2年では少ない傾向にある。

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか

(表中の数値は、「あてはまる」・「ほぼあてはまる」の合計値)

	R26月	9月	2月	R37月	11月	2月	R47月	2月
1年							91%	97%
2年				100%	91%	96%	97%	91%
3年	95%	95%	97%	97%	91%	90%	97%	100%

(95%) (96%)

(表中の数値は、「あてはまる」の数値)

	R26月	9月	2月	R37月	11月	2月	R47月	2月
1年							67%	58%
2年				61%	56%	48%	58%	50%
3年	78%	82%	94%	79%	75%	76%	80%	93%

(68%) (67%)

「あてはまる」と肯定的にとらえている生徒が3年生で顕著に多く、すべての生徒が肯定的に答えた。一方で1年生・2年生は半数程度にとどまっている。「あてはまる」「ほぼあてはまる」の合計は、どの学年でも9割を超え、校内全体で肯定的にとらえる生徒が多い。

○将来の夢や目標を持っていますか

(表中の数値は、「あてはまる」・「ほぼあてはまる」の合計値)

	R26月	9月	2月	R37月	11月	2月	R47月	2月
1年							91%	63%
2年				64%	50%	55%	60%	56%
3年	93%	95%	88%	94%	88%	87%	90%	87%

(80%) (69%)

(表中の数値は、「あてはまる」の数値)

	R26月	9月	2月	R37月	11月	2月	R47月	2月
1年							61%	27%
2年				39%	32%	26%	24%	31%
3年	83%	72%	71%	79%	66%	59%	60%	70%

(48%) (43%)

3年生で特に高く、「あてはまる」と答えた生徒は7割になり、10ポイント増加した。1, 2年生では3割未満であるが、「あてはまる」「ほぼあてはまる」の合計値は、半分を超えている。

○自分にはよいところがあると思いますか

(表中の数値は、「あてはまる」・「ほぼあてはまる」の合計値)

	R26月	9月	2月	R37月	11月	2月	R47月	2月
1年							63%	48%
2年				38%	39%	36%	39%	44%
3年	73%	79%	65%	75%	63%	58%	70%	67%

(57%) (53%)

(表中の数値は、「あてはまる」の数値)

	R26月	9月	2月	R37月	11月	2月	R47月	2月
1年							21%	9%
2年				19%	12%	13%	15%	16%
3年	40%	47%	41%	33%	25%	24%	37%	37%

(24%) (21%)

「あてはまる」と答えた生徒は、3年生で最も多く、1年生で最も低かった。「あてはまる」「ほぼあてはまる」と肯定的に答えた生徒は、2年生が最も低い、上昇傾向にある。

○タブレットを使用することで、学習意欲は高くなったと思いますか。

(学ぶ意欲)

(表中の数値は、「思う」・「だいたい思う」の合計値)

	R47月	2月
1年	91%	79%
2年	72%	82%
3年	86%	90%

(83%) (84%)

タブレットを使用することで、学習意欲が高まったと思うポイントが伸びたのは2年生である。3年生でも全体としてはポイントが伸びているが、「思う」の数値は下がっている。1年生では、7月に比べ、大幅にポイントが下がっており、タブレットを活用した授業に対して否定的な受け止め方をしている可能性があるが、一方で年度当初が、小学校との違いで極端に高く回答していた可能性がある。

○タブレットを使用することで、知識やできることが増えたと思いますか。
(学んだ力)

(表中の数値は、「思う」・「だいたい思う」の合計値)

	R4 7月	2月
1年	91%	87%
2年	96%	91%
3年	93%	90%

(93%) (89%)

タブレットを使用することで、知識やできることが増えたと思う生徒が最も増えたのは2年生である。1年生では7月に比べ減少傾向がみられるが、2、3年生はおおむね高い割合であった。校内全体でもほぼ9割の生徒が学んだ力をつけることができたと回答した。

○タブレットを使用することで、物事についてよく考えたり、自分の考えを表現したりすることが増えたと思いますか。(活かす力)

(表中の数値は、「思う」・「だいたい思う」の合計値)

	R4 7月	2月
1年	87%	72%
2年	76%	68%
3年	93%	97%

(85%) (79%)

タブレットを使うことで、物事についてよく考えたり、自分の考えを表現したりすることが増えたと思う生徒が増えたのは、2年生、3年生である。特に3年で97%が肯定的にとらえた。1年生では減少している。

〈学習アンケートから分かる全体の総括〉

- ・学ぶ意欲は、校内全体で7月と変わらず、おおむね8割を超える高い水準で、生徒が高まったとしている。学年別に見ると、1年生で大きく下がったが、2年生では肯定的な受け止めが10ポイント増加し、3年生でも9割の生徒が肯定的に振り返った。
- ・学んだ力は、7月に比べるとやや下がったが、全体としては9割近くが肯定的に答えており、特に2年生で上昇した。
- ・活かす力は、3年生で顕著な上昇がみられたが、1，2年生では否定的な受け止めがあった。
- ・家庭学習時間は、1年生・3年生が高く、2年生でやや低い。
- ・自己肯定感の低い生徒が多く、1，2年生でその傾向が強い。特に1年生の生徒の数値が7月に比べ、大きく減少した。3年生では7月に比べ、やや減少しているものの全体としては7割近くの生徒が自己肯定感を持っている。
- ・「人の役に立つ人間になりたいか」の項目では、校内全体で95%を超す高いポイントを維持し、特に3年生では100%であった。一方で「将来の夢や目標はありますか」の項目では、1年生が大幅な減少をしている。

研究の成果・今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 学習アンケートの結果からは、学ぶ意欲、学んだ力、活かす力について、タブレットを使用することで力がついたと8割以上の生徒が振り返り肯定的であった。2年生ではどの項目も上昇傾向にあり、3年生では全ての項目で高く、特に活かす力をつけることができた。そして、職員全体でアイデアを共有しながら、「学ぶ力」を育成する1人1台端末を活用した指導法の工夫を探ることができた。
- (2) 家庭学習におけるタブレットを活用した学習が増え、1・3年生を中心に家庭学習時間が顕著に増えた。
- (3) 様々な教育活動におけるタブレットの使用は、生徒に活躍の場を与え、職員や生徒同士、保護者により承認することで生徒全体の自己肯定感を上昇させたと考える。特に3年生では高いポイントを維持できた。

2. 今後の課題

- (1) 学習アンケートの結果からは、8割以上の生徒が「学んだ力」がついたと振り返ったが、1年生を中心に否定的な回答が増加した項目があった。これは、1年生については小中の指導法のギャップにより7月が実態以上に高いポイントになったためであると考えられるが、7月の時の生徒の学びに比べ、やはり校内全体として学習意欲が低下していることが予想される。3年生での実践は、どの項目も高い数値がみられた

ため、どのような実践が効果的に機能したのか振り返ることが、これらの課題の解決の糸口となりえる。

- (2) 家庭学習時間は、1・3年生で顕著な増加がみられたが、2年生では減少傾向がみられた。今後は自学ノートの指導を丁寧に行い、工夫し、生徒同士で承認する機会を確保することも必要だと考える。特に2年生において家庭学習に取り組めていない生徒のフォローが必要である。また、授業で学んだことについて、保護者に意見を聞いたり、さらに深く調べたりする家庭学習の充実も行いたい。
- (3) 様々な教育活動における1人1台端末の使用は、個別最適な学びの実現をはかり、行事などにおいても、生徒にあった学習を進めるツールとなる。そして、協働的な学びにつなげやすい。現在の肥前中では、どの学年においても、自己肯定感の低い生徒が一定数存在し、タブレットを活用し、それぞれにあった指導を実現できれば、自己肯定感の低い生徒に有用感を持たせる可能性を秘めている。全体を上げていく視点とともに、個に応じたきめ細かな指導や活動の充実をはかる必要がある。

来年度について

1. 来年度について

- (1) 授業における1人1台端末の活用では、アイデアをさらに練り、個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けて、研修を行い、共通理解・共通実践を行う。1人1台端末をどのように活用すれば、生徒に有用感をつけられるのかを考えの軸とする。
- (2) 家庭学習で、1人1台端末を活用した多岐にわたる活動を行うことができた。しかし、家庭学習時間は、校内全体として伸びていない。そして全学年で統一した指導が行われていない。自学ノートの提出状況もクラスにより異なり、朝にほとんどの生徒が出せているクラスもあれば、放課後に数名の生徒を居残りさせているクラスもある。本校では、一昨年よりアウトプットをはかった自学ノートの指導を進めており、校内全体として一定の成果を得ていた。そうした研究の財産を、共通理解しておき、端末を活用した自学ノートの取組方についても可能性を再考し、職員で一丸となって指導を行う必要がある。
- (3) 様々な教育活動におけるアウトプットは、生徒の自己肯定感を高めることができたが、アンケートをとる時期などにより、結果にゆらぎがみられた。思春期をむかえる状況の中で、生徒にとって、努力したことを承認する端末を活用した学習は効果的だ

と考えるが、一方で生徒の状況に配慮しながら、本人たちが達成感を感じられるように、手立てを講じながら充実させる必要がある。

- (4) 学力診断テストや学習状況調査の結果からは、多くの教科で、前年より高い結果を得ることができたことがいえる。授業での端末を活用した実践について、本年度の反省を踏まえ、次年度にさらに工夫を加えて実践を継続したい。